

『防災訓練』について

- ・ 本日の5・6限目に『防災訓練』を行います。学年ごとに、1年生は『防災研修』、2年生は『防災訓練（体験）』、3年生は『救命救急講習』をテーマに取り組みを行います。
- ・ 『南海トラフ巨大地震』が、今後30年以内に発生する確率は、皆さんもご存じの通り『70～80%』から、今年の1月に『80%程度』に引き上げられました。南海沖では、概ね100年～150年の間隔で津波を伴う大規模災害が発生しており、前回は1944年に『昭和東南海地震』、1946年に『昭和南海地震』が発生し、約80年が経過したことから次の巨大地震発生の可能性が高まっているということになります。
- ・ 昨年の8月8日に九州（宮崎県）で発生した地震をきっかけに南海トラフ巨大地震『臨時情報』が初めて発表されました。その時のレベルは『巨大地震注意（想定震源域内でM7.1以上）』であったのに対して、将来的には『巨大地震警戒（想定震源域内でM8.0以上）』という高いレベルでの『臨時情報』が発表される可能性もありますので、その違いについても皆さんは知っておいてください。
- ・ 大地震の場合は、家の中の家具が倒れたり、テーブルや台の上に置いてあるテレビなどの電化製品が飛んできたりするようなこともあります。地震の訓練時には、必ず伝えていくことですが、皆さんの家の寝室に倒れてくるような大きな家具や飛んできそうな電化製品などは置いていませんか。置いている場合は、金具などで固定するなどの対策が必要です。
- ・ 30年前（1995年1月17日）の『阪神淡路大震災』は早朝（5：46）に発生したため、寝ている状態で家具の下敷きとなり亡くなった方が多数いました。このような『防災訓練』を機会に、今一度、家の中を見直し、家族で話し合ってみてください。
- ・ また、皆さんはずっと阿倍野区で生活をしているわけではありません。仮に、3年生が修学旅行で出向いた四国地方や、今、パンダで賑わっている和歌山県などの太平洋側に出かけていた場合などは、場所によっては10m以上の津波が想定されています。

- ・ 10m を超えるような津波に襲われると、学校の校舎の場合、2階・3階あたりの高さでは、完全に流されてしまうことになります。
- ・ 今、住んでる地を離れた時も、大地震による津波発生の可能性がある場合は「できる限り高い所に逃げること」が基本になることや、あわせてどこに避難するべきかを前もって確認しておくことがとても大切なことです（今日も、早朝に北海道で震度4の地震がありました）。
- ・ 地震以外の『自然災害』についてですが、8月・9月になると日本では台風や大雨による被害が例年多くなります。統計では、発生した台風が日本列島へ上陸する可能性は8月よりも9月の方が高いようです。
- ・ 日本には、『二百十日（にひやくとおか）』という言葉があります。2月初旬の立春（2月4日頃）から数えて210日目にあたる9月1日頃に台風の被害が多くなっており、また、102年前に『関東大震災』が発生した日であることから9月1日は『防災の日』と定められています。
- ・ 近年、各地で大規模な台風や集中豪雨、長期の大雨などにより日本各地で想定外の風水害が起こる時代となり、昨年の台風10号では暴風の被害とあわせて、大雨による洪水の被害が全国各地で発生しました。阿倍野区においても、もう“よそ事”ではなくなってきています。
- ・ 「備えあれば憂いなし」という故事（昔から伝わるいわれ）は、「日頃からいざという時の準備を怠らなければ、万が一の事態が発生しても心配することはない」という意味です。防災・減災のための戒めや教訓であるように感じます。
- ・ また、「災害は忘れたころにやってくる」という先人の教えを、『防災訓練』などの機会があるたびに、再確認する必要を感じます。今回の『防災訓練』は、もしもの時に、自分自身のいのちを、そして他者のいのちを守れることが最大の目的です。意識をして取り組んでください。以上で私の話は終わります。